

枚方市まち・ひと・しごと創生総合戦略

骨子（案）について

1. 総合戦略の構成

第1章 人口ビジョン

人口ビジョンは、各地方公共団体における人口の現状を分析し、人口に関する地域住民の認識を共有し、将来の人口の見通しを提示するもの。

第2章 地域ビジョン

地域ビジョンは、市が抱える社会課題等を踏まえ、地域が目指すべき理想像であり、そこに向けた地域活性化の取り組みを進めていくことが求められる。

第3章 総合戦略（骨子）

基本目標を達成するために講ずべき施策の目標や目標達成に向けた基本的方向をもとに具体的施策を定める。

2. 策定の経過・趣旨

国の「まち・ひと・しごと創生法（平成26年法律第136号）」に基づき、人口減少への対応を図るため、令和元年12月以降、「枚方市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、市民が住み続けたい、市外の人に住みたいと思える魅力的なまちを目指して取り組みを進めている。

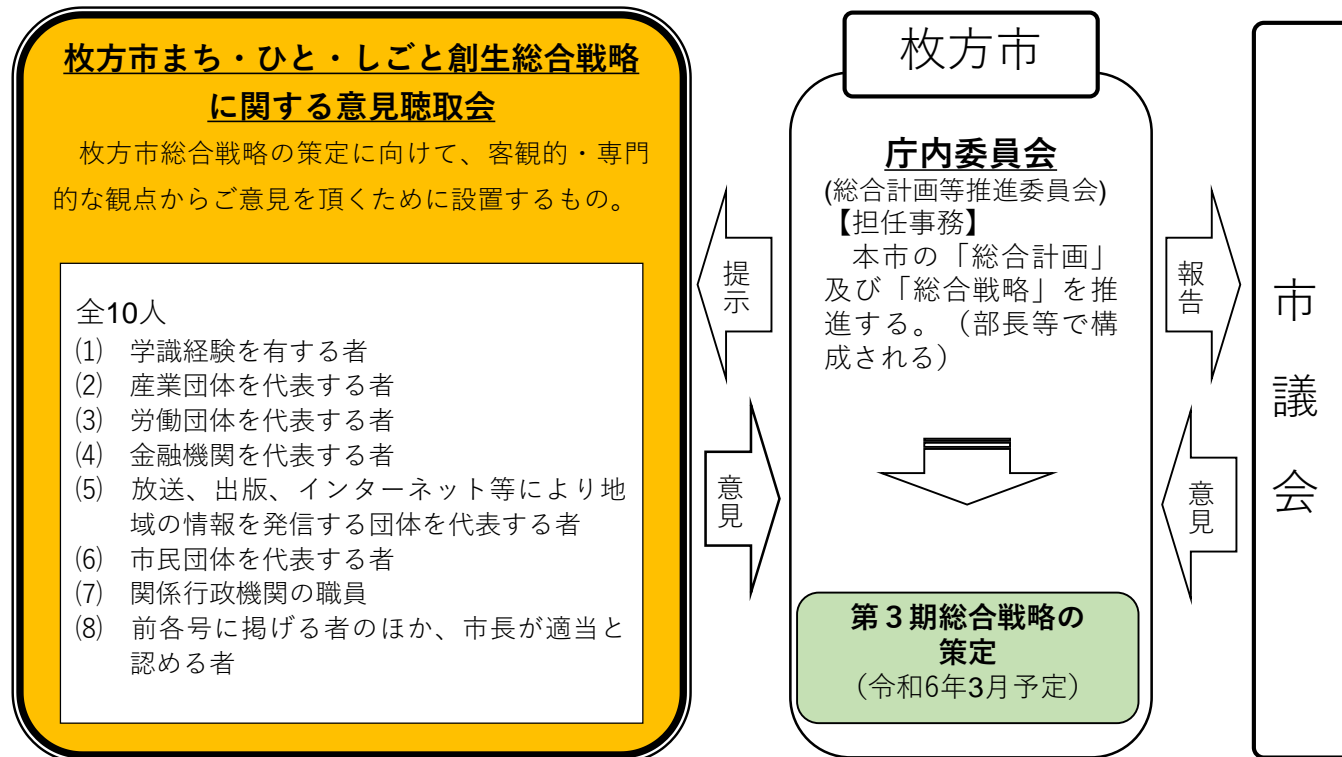
また、国においては、令和4年12月にデジタル田園都市国家構想総合戦略が策定され、これまでの地方の社会課題解決や魅力向上の取り組みをデジタルの力を活用し、継承・発展させていくことが求められている。

そこで、人口減少が見込まれる中、目指すまちの姿の実現に向けて、デジタルの視点を取り入れた新たな総合戦略を策定するもの。

なお、計画期間は枚方市総合計画の第3期実行計画の期間に合わせ、令和6年度（2024年度）から令和9年度（2027年度）までの4年間とする。

3. 策定体制

新たな総合戦略については、「枚方市まち・ひと・しごと創生総合戦略に関する意見聴取会」（学識経験者や産業団体・市民団体等の代表者など全10名で構成）を設置し、客観的・専門的な観点から幅広い意見をいただくとともに、市議会からの意見をいただきながら、策定。



4. 人口動態

第2期総合戦略における人口ビジョンについては、「枚方市人口推計調査報告書」を基本とし、国や大阪府のビジョンを踏まえながら、人口減少に対応するための将来の方向を定めるとともに、自然・社会増減に関する仮定を置き、目指すべき将来人口を展望した。

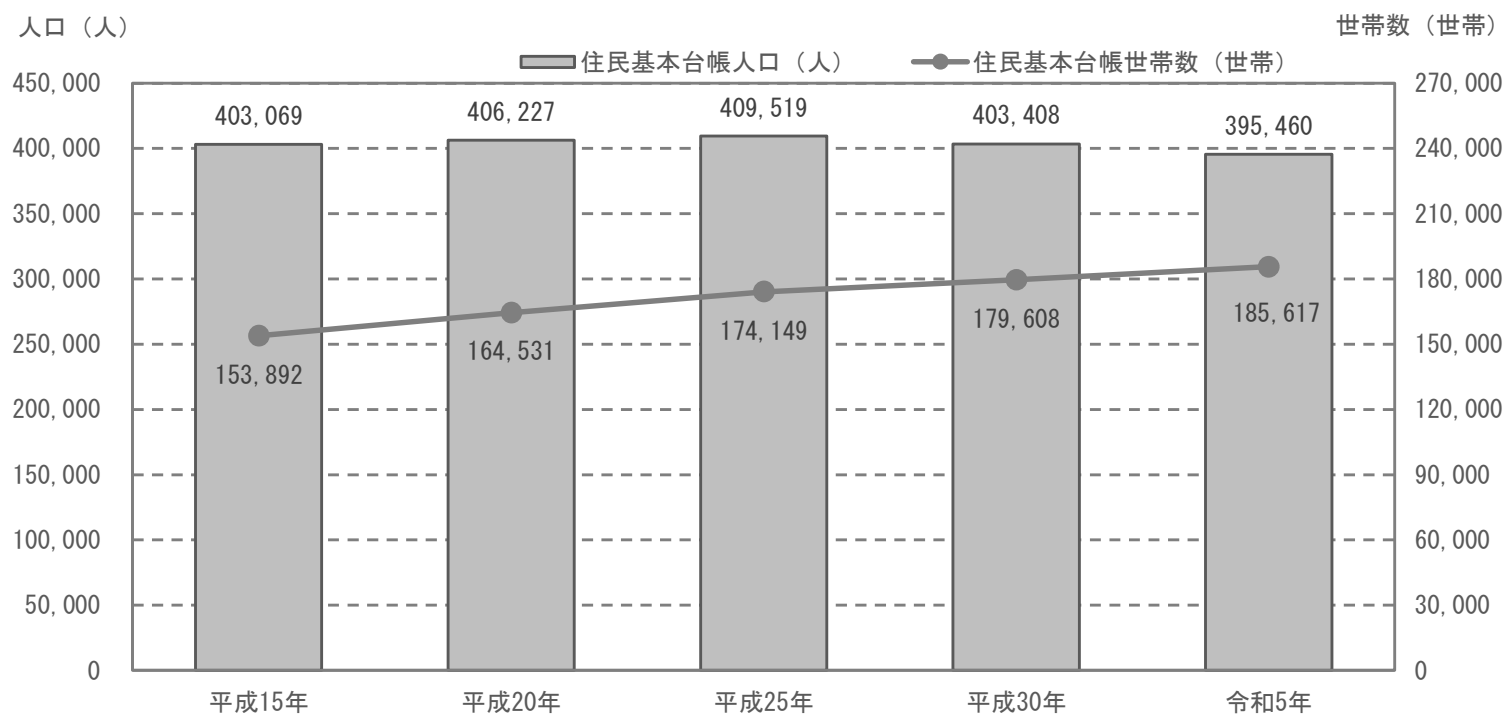
本市の人口動態については、次のとおり。

(1) 総人口・世帯数の推移

本市の総人口については、長期に渡り増加傾向が続き、平成21年10月の410,800人をピークに減少傾向となり、令和5年5月1日時点では395,460人となっている。

一方、世帯数については、増加傾向が現在まで続いており、平成15年の153,892世帯から令和5年の185,617世帯まで、直近20年間で約32,000世帯増加している。

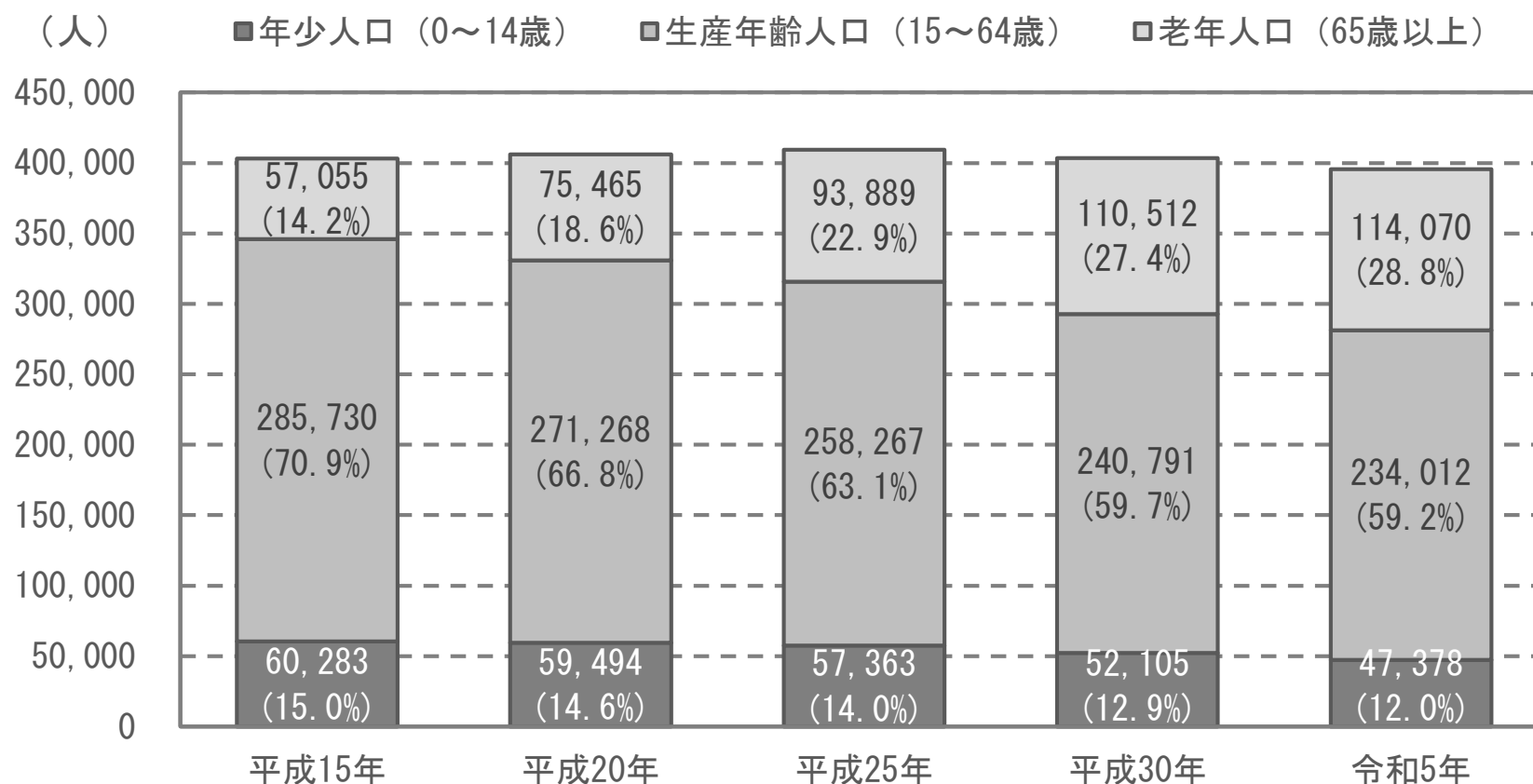
また、1世帯あたり人員は減少傾向で、家族の少人数化が進んでいることがうかがえる。



出典：住民基本台帳(各年5月1日時点、平成15年のみ4月1日時点)

(2) 年齢3区分別人口割合の推移

年齢3区分別人口については、平成15年から令和5年にかけての20年間で、年少人口比率が3.0ポイント、生産年齢人口比率が11.7ポイント減少しているのに対し、老年人口比率が14.6ポイントと大きく増加しており、少子高齢化の進行が確認できる。

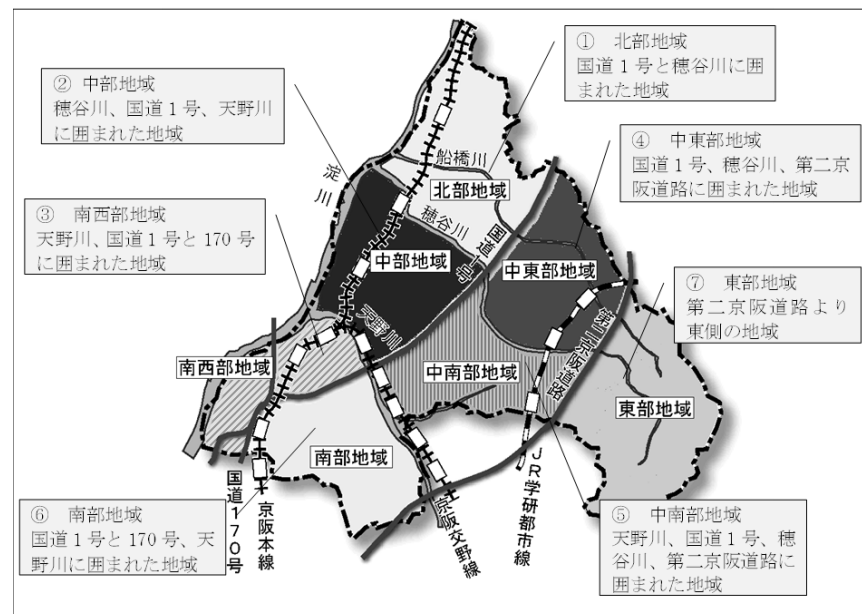
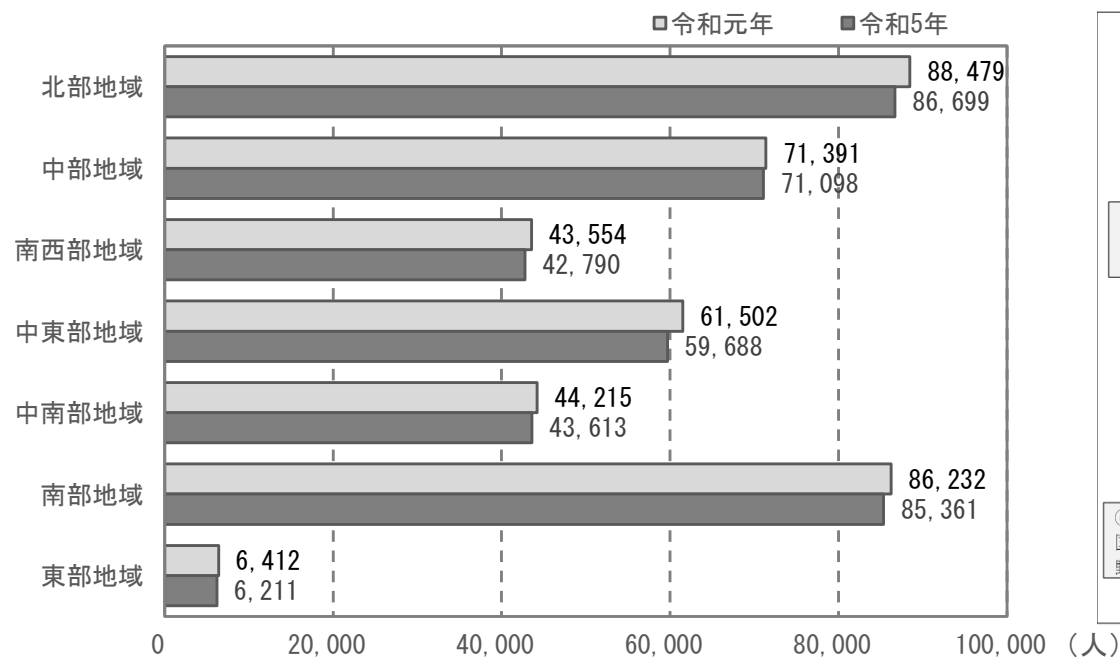


出典：住民基本台帳(各年5月1日時点、平成15年のみ4月1日時点)

(3) 地域別人口の推移

地域別の人口については、市域を主要な河川や幹線道路によって7つの地域（北部地域、中部地域、南西部地域、中東部地域、中南部地域、南部地域、東部地域）に区分。

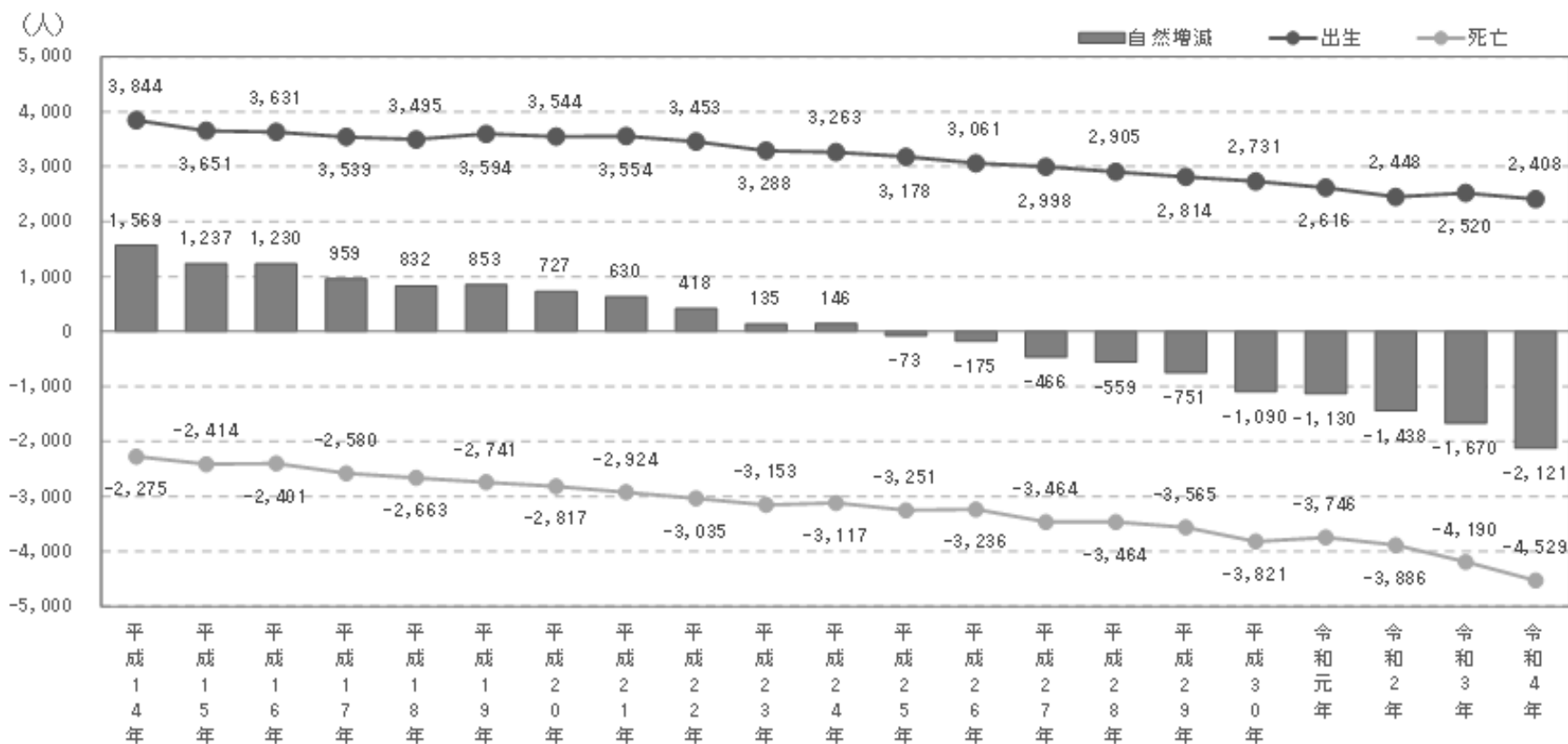
平成30年と令和5年の住民基本台帳を比較すると、全地域で減少しており、特に北部地域、中東部地域でそれぞれ約1,800人の減少がみられる。



出典：住民基本台帳(各年5月1日時点、平成15年のみ4月1日時点)

(4) 自然動態（出生数・死亡数）の推移

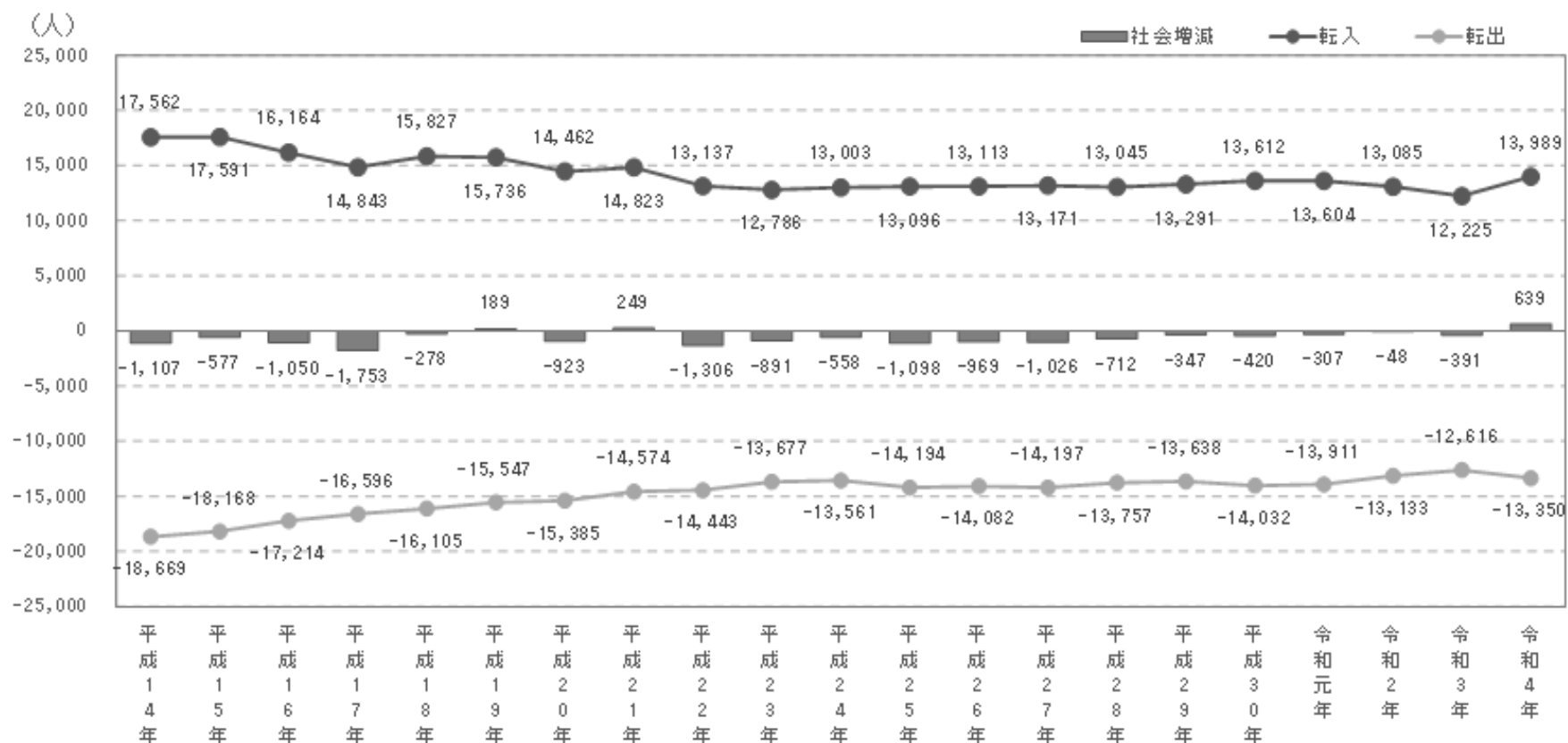
出生数は減少傾向、死亡数は増加傾向にあり、平成25年に死亡数が出生数を上回っている。以降10年間にわたり、いわゆる自然減が加速度的に進行している。



出典：住民基本台帳(平成14年～令和4年)

(5) 社会動態（転入・転出）

平成19年および平成21年を除き、転出数が転入数を上回るいわゆる社会減が続いていたが、令和4年には転入数が大きく増加したため、社会増に転じている。

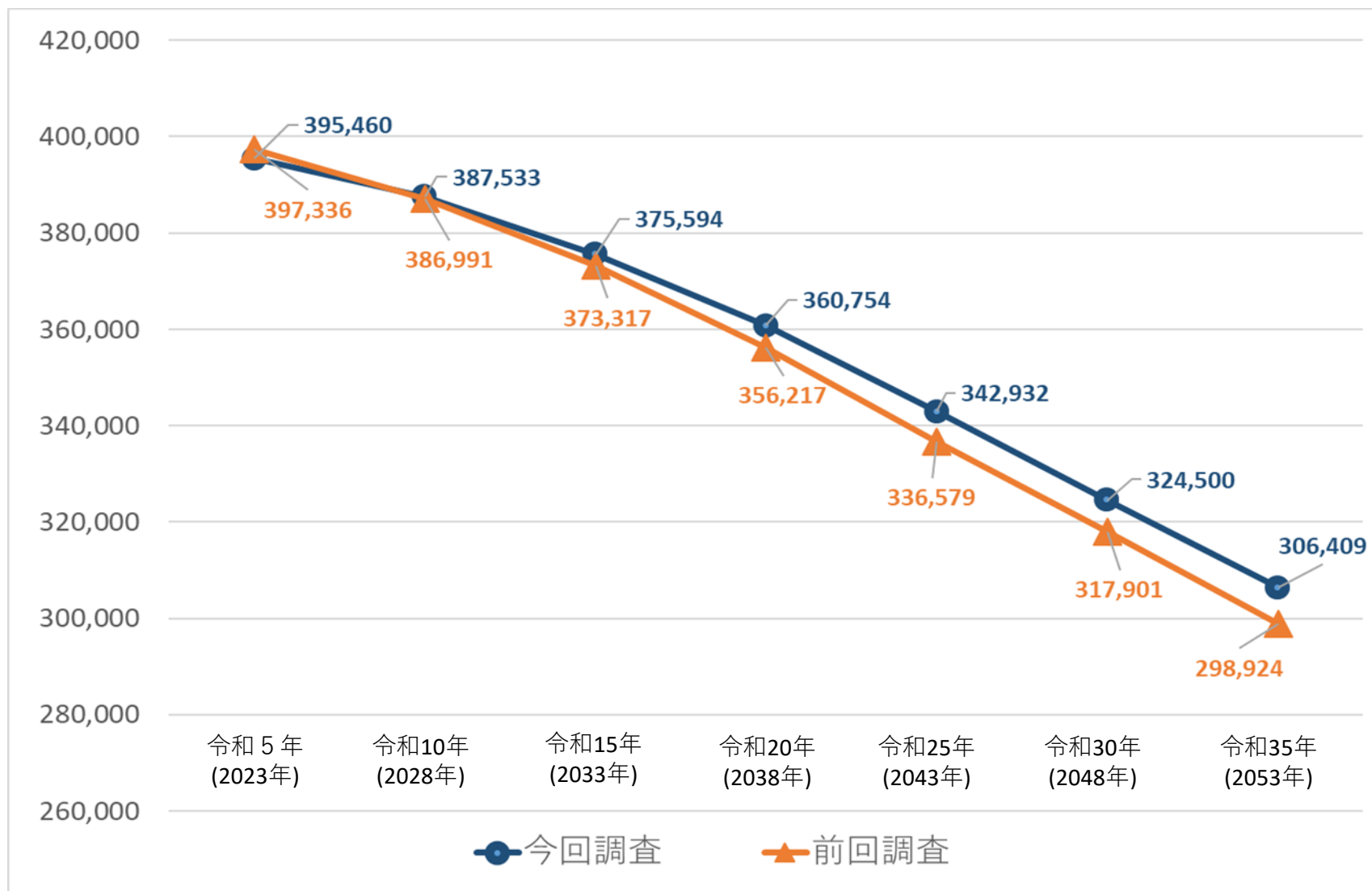


出典：住民基本台帳(平成14年～令和4年)

5. 人口ビジョンについて

(1) 将来人口推計（枚方市人口）

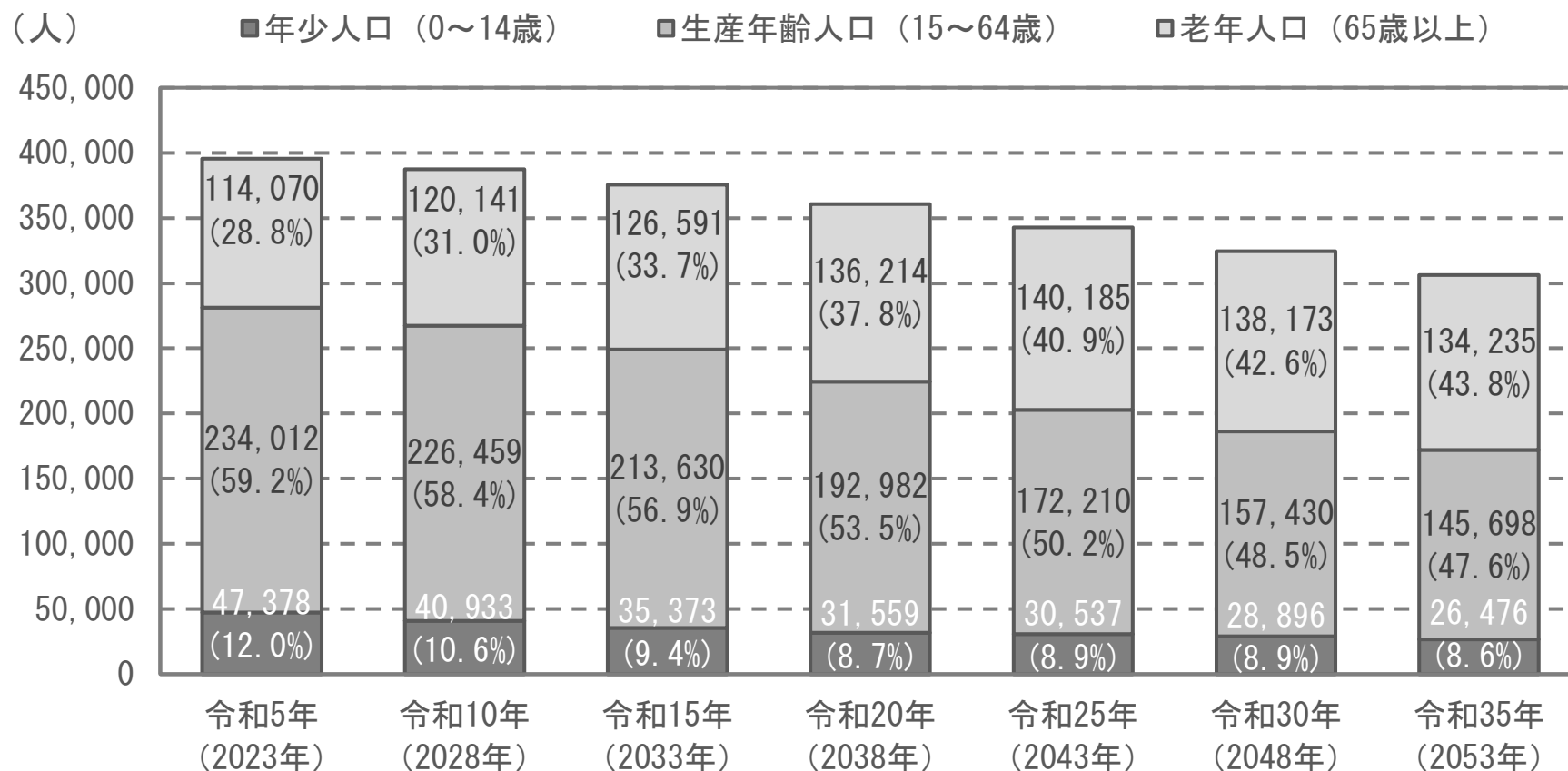
今年度実施した将来人口推計では、令和5年(2023年)から10年間で約19,900人(▲5.1%)、今後、30年間で約89,000人(▲22.5%)の減少となった。
前回調査(R2)は、2053年の人口を298,924人と推計しており、減少幅は緩和している。



(2) 将来人口推計（年齢3区分別人口割合）

年少人口および生産年齢人口の割合は減少し続ける見込みです。

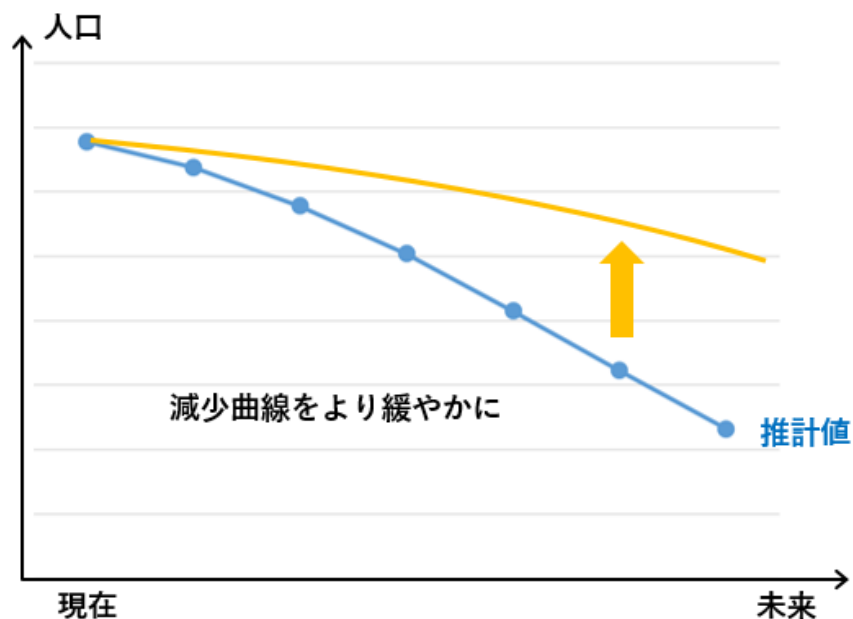
一方、老年人口割合は上昇を続け、30年後の令和35年には生産年齢人口と老年人口がほぼ1：1の状況になる見込みです。



(3) 枚方市人口の将来見通し

○このまま少子高齢化が進行すると、税収入の減少や社会保障費の増加から財政状況の硬直化がさらに進み、行政サービスが低下していく懸念がある。加えて、地域で活躍する人材の不足による地域産業や地域コミュニティ等の衰退を招き、都市圏等へ人口が流出していくという恐れも考えられる。

○これらの現状・懸念事項を踏まえ、引き続き良好な都市機能を維持していくために、人口減少の曲線をより緩やかにしていくことをめざす。



6. 地域ビジョンについて

①地域ビジョンとは

地域ビジョンは、市が抱える社会課題等を踏まえ、地域が目指すべき理想像であり、そこに向けた地域活性化の取り組みを進めていくことが求められる。

②将来像の展望にあたって

将来像を展望するにあたっては、市民意識調査や同調査の対象としていない将来を担う世代である15～17歳の意見を聴取したうえで、内容分析を行った。

③定住意向

本市への定住意向を示す市民の割合は8割を超えており、若者世代のみを対象としたアンケートにおいても、定住意向を示す割合は約7割と高水準だったものの、将来的に枚方に戻ってこないと回答した数も少なくなかった。そのため、定住施策の推進とともに、ライフステージごとに効果的かつ若者が枚方に戻ってきってもらう（U・Iターン）ためにも魅力的なまちづくりを行う必要がある。

- ・本市への定住意向を示す市民の割合82.7%
- ・定住意向を示す若者の割合69.9%(458人)
- ・移住希望を示す若者の割合30.1%(197人) 【内55.8%(110人)が戻ってこないと回答】

◆令和5年度枚方市市民意識調査の概要

○実施要領

調査対象：市内在住の満18歳以上の方 2,500人(無作為抽出)
調査期間：4月26日～5月25日
回答方法：郵送またはQRコードからの回答
有効回答：967件(回答率38.7%)

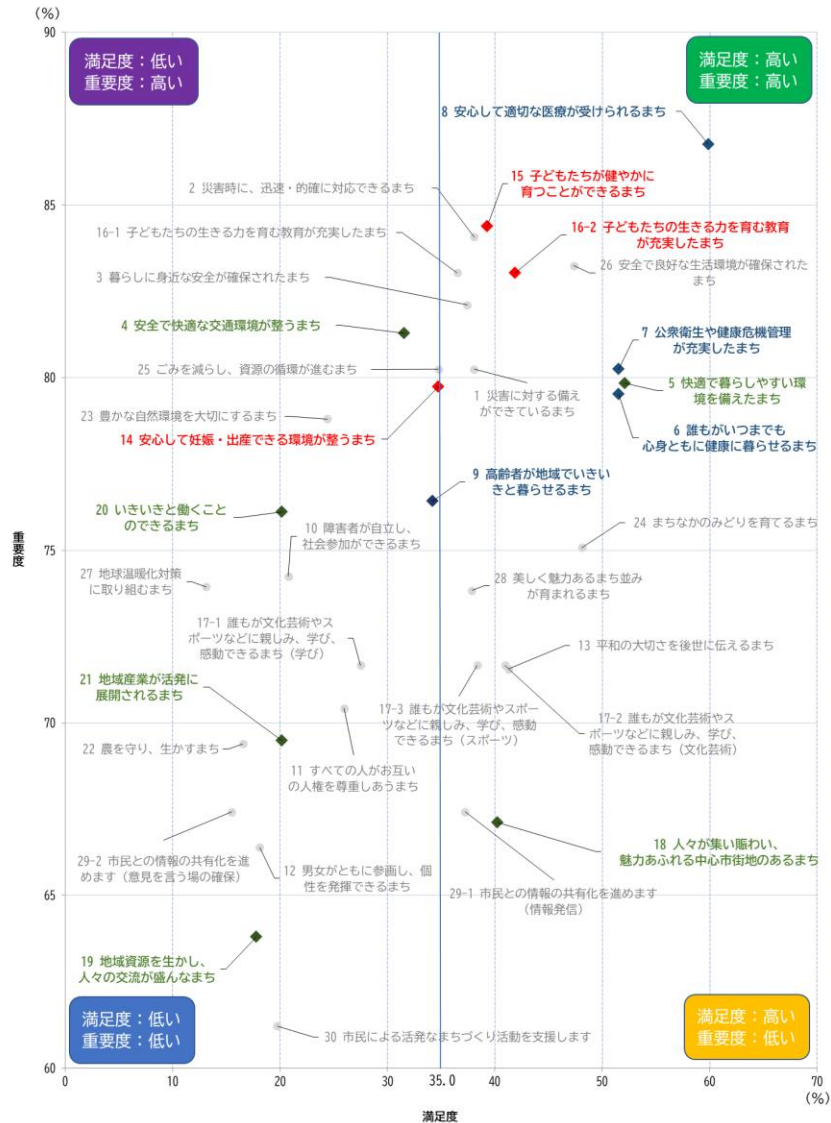
◆令和5年度枚方市若者アンケート調査の概要

○実施要領

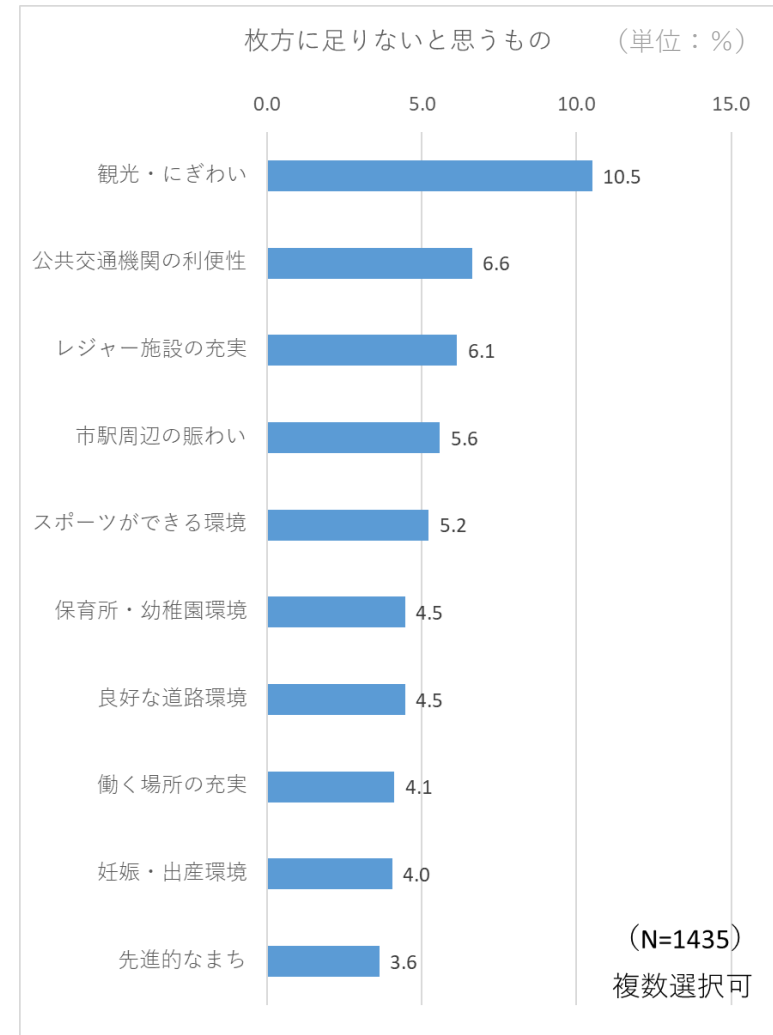
調査対象：市内在住の満15歳～29歳の方 2,500人(無作為抽出)
調査期間：9月1日～9月20日
回答方法：ハガキに記載のQRコードからの回答
有効回答：655件(回答率26.2%)

④魅力的なまちの主要要素

- ・子どもを産み育てたいという希望に応え、出産から子育て期までの切れ目のない支援
- ・子どもから高齢者に至るまでの生活を支える教育・医療・福祉資源
- ・まちの活力・賑わいを産み出す地域の産業資源・文化資源



※令和5年度枚方市市民意識調査結果より作成



※令和5年度枚方市若者アンケート調査結果より作成

6. 地域ビジョンについて

⑤持続可能な発展のために

「SDGs」

地方創生に取り組むにあたって、SDGsを原動力とした経済・社会・環境の3側面の調和を図る取り組みを進めることで、施策の全体最適化や社会課題解決の加速化を図る。

「関係人口」

必ずしも居住していない市外の人々とのつながりを築き、交流機会や人の流れを作ることによってイノベーションを生みだし、地域の担い手として活躍する「関係人口」と呼ばれる人材の創出・拡大にも取り組む。

「デジタル技術の活用」

テレワークの普及や地方移住への関心の高まりなど、社会情勢がこれまでとは大きく変化している中、本市においても、デジタル技術等の最新技術の積極的な活用により、市民生活のあらゆる場面での利便性向上やDXによるさらなる市民サービスの向上に取り組むとともに、市民の暮らしやすさや幸福につながっているかを、定量的に確認しながら進めていく。

⑥めざすまちの姿

「人口減少が進む中においても、持続可能な発展により誰もが幸せを実感できるまち」

7. K G I 設定

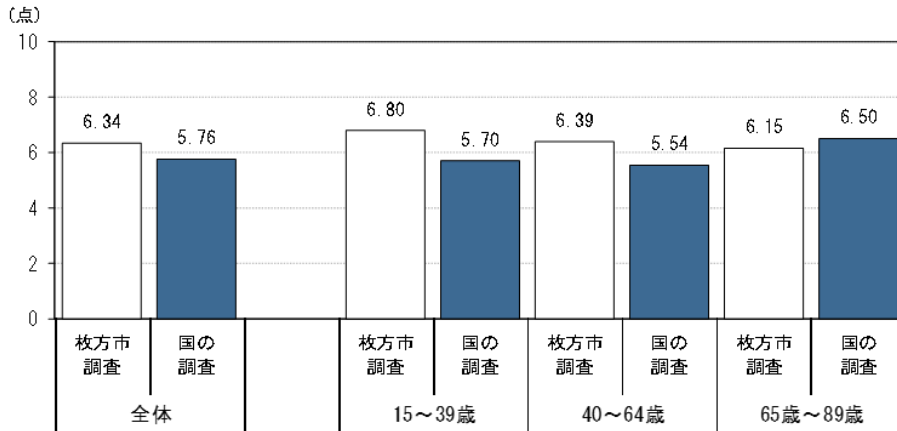
重要目標達成指標（K G I）の設定：令和9年度達成目標【事務局案】

① 生活満足度（Well-being）：6.34以上

②総人口：389,421人以上

③年少人口の割合：10.8%以上

④生産年齢人口の割合：58.4%以上



※枚方市調査の「65～89歳」の数値は「65歳以上」の数値

※令和5年度枚方市市民意識調査報告書より抜粋

○総人口

現状（令和5年）	推計（令和9年）	目標
395,460人	389,421人	↗

○年少人口の割合

現状（令和5年）	推計（令和9年）	目標
12.0%	10.8%	↗

○生産年齢人口の割合

現状（令和5年）	推計（令和9年）	目標
59.2%	58.4%	↗

- ・ K G I の達成度を把握し評価するための指標として、重要業績評価指標（K P I）を位置付ける。【子育て世帯の転入超過数など】
- ・ 市民意識調査で得られる **主観的成果指標**（満足度）とともに、各施策の効果を検証できるように **客観的成果指標** を定める。
- ・ 本市の情報化戦略である「情報化基本計画」と、総合計画で定める基本計画を具体化した「第3期実行計画」との整合を図りながら、具体的施策を定めていく。

8. 総合戦略骨子（案）

～はじめに～

1. 策定の経過・趣旨
2. 策定体制

第1章 人口ビジョン

1. 枚方市人口の現状
 - (1) 総人口・世帯数・年齢3区分別人口割合の推移
 - (2) 地域別人口の推移
 - (3) 自然動態（出生・死亡）
 - (4) 社会動態（転入・転出）
2. 枚方市人口の将来見通し

第2章 地域ビジョン

1. 人口減少社会における枚方市の目指すべき将来像
 - (1) 第5次枚方市総合計画と国のデジタル田園都市国家構想総合戦略
 - (2) 目指すべき将来像

第3章 総合戦略

1. 本市の取り組みの方向性
2. 総合戦略の基本的な考え方
3. 総合戦略のK G I（重要目標達成指標）と3つの基本目標
4. 総合戦略の推進
 - (1) K P I（重要業績評価指標）
 - (2) 具体的施策